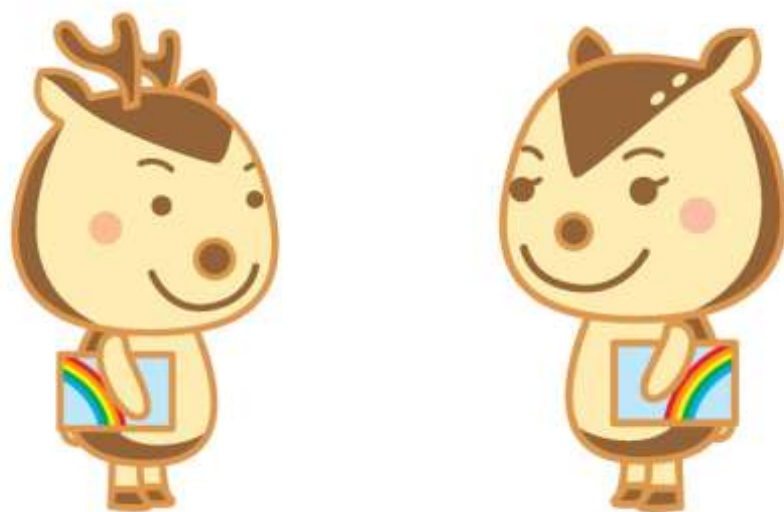


# N 部門

(知的障害教育部門)

文字・言語、文章の教材  
教員作成教材ガイド



平成28年度

東京都立鹿本学園

## 目次

- 「ひらがなの学習」
- 「ことばえらびボード」
- 「しりとりあそび」
- 「ルールでGo」
- 「ひらがなりレー」
- 「三語文をつくろう」

# ひらがなの学習 ～ことばをつかって いってみよう～

## 対象児童・生徒

- ・文字の形をとらえたり文字に興味がある児童。
- ・平仮名50音を見分けてマッチングすることができる児童。
- ・身近な食べ物や名詞がわかり、発声することができる児童。

N 小3 自閉症学級

太田ステージ III - 1



## ねらい

- ・イラストや写真を見て、文字を構成し、身近な物の名前の理解を図ることがねらいです。
- ・構成した文字を1音ずつ読んだり、単語で発声したりすることがねらいです。

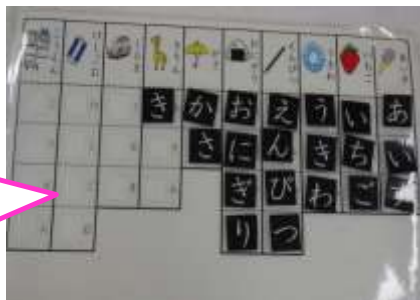
- ・正誤を確認できるようにイラストの横や枠の中に文字を示した。
  - ・児童の身近な物や知っているイラストを用いた。(あいうえお・・・ではじまる言葉)
  - ・クリアファイルにマジックテープを貼り文字カード貼ることで、文字を見比べられるようにした。
- 昨年度から平仮名50音のマッチングに取り組み、見分けたり読んだりすることができるようになったため、文字の構成にチャレンジ!

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・個別課題学習(自習課題)で行う。
  - ①イラストと単語のマッチングを行う。
  - ②文字のまとまり(単語)で見分けられるようになったら、文字カードを1文字ずつ切り離し文字の構成を行う。
  - ③文字の構成をしたもの読んで確認をする。
- ※自習課題なので、誤答させないように、スモールステップで行う。

### ステップ

文字を横に小さく示すことでマッチングと同じようにで



### ステップ2

文字の構成の仕方が理解できたら文



# ことばえらびボード ～たくさんの言葉を覚えよう～

## 対象児童・生徒

- ・文字を読むことができるお子さんです。（書くことはできますが時間がかかります）
- ・文字と具体物、言葉の一致が難しいお子さんです。

N 小6 自閉症学級

太田ステージ III - 1 ～ III - 2



## ねらい

- ・文字と具体物の認識ができるようになって欲しい。
- ・物の名前をたくさん知り、語彙力を増やして欲しい

- ・ボードには「50音シート」を貼り、シートの上にカードをマグネットで貼った。
- ・ひらがなだけでなく「カタカナ」のボードも作成した。
- ・一文字ずつ集めるのが困難な子供には「単語カード」を用意し、「絵」と「単語」のマッチングから、段階的に行った。
- ・自分で絵を選んで貼り問題を解いていくことから、自分のペースで意欲的に取り組むことができた。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・50音の認識がまだ確実でないお子さんは文字を50音にならべることからはじめる。

①授業時間内で取り組むだけのカードを出すようにし、「今日は〇枚がんばるよ」と終わりがわかるように提示する。

②取り出した絵カードから子供が選び、上のボードにはり、対応する文字を選んでいく。  
・必ず絵カードと自分が作った言葉を声に出して読むようにし、正解かどうかを自分で確認させるようにする。

③正解した時、ノルマを達成した時にはハイタッチをするなど、達成感を味あわせる。



# しりとりあそび ～平仮名獲得に向けて～

## 対象児童・生徒

小学部低学年の平仮名獲得以前の児童が対象である。5分程度継続して着席でき、対象に注目できる児童を想定している。

N 小2

太田ステージ II



## ねらい

- ①しりとりという言葉遊びを通して、平仮名に興味をもてる。
- ②絵を手がかりにして、単語の読みがおおまかに分かる。
- ③一文字隠すことにより文字への注目度が増し、単語の構成についての理解につながる。

しりとりを用いる絵は、当該児童の身近なものや興味関心を抱きやすいものを選んだ。また平仮名一文字一文字に注目する活動も取り入れたかったので、2文字～3文字で構成された短い単語を扱った。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①『お話はじまるよ』などの歌をうたい、教材に児童の関心と視線を引き付けてから始めると、楽しい雰囲気を出しやすくなる。
- ②「しりとり」の「り」から始めるよ～」と伝え、文字に注目するルールをさりげなく意識させる。
- ③「ごりら」以降は、先に平仮名を見せて、絵はじわじわと見せるようにする。「平仮名がなんと書いてあるのか?!」という気にさせ、「読みたい」という気持ちを引き出すことをねらっている。
- ④学習を重ね、児童がしりとり遊びのルールをなんとなく理解できるようになってきたら、語頭や語尾を隠して文字に注目させる活動を取り入れて平仮名獲得につなげる。

# レールで GO ～つなげておぼえよう～

## 対象児童・生徒

ブラレールのレールをつなげることが大好きな児童のために、レールをつなぎながら自分の名前や数字、数順、路線名などをマッチングさせることのできる教材です。

N 小4 知的障害学級

太田ステージ III - 1 ~ IV以上



## ねらい

- ・数字やひらがなの学習に自ら取り組むことができる
- ・ひらがなと漢字のマッチングをすることができる

- ・レールのおもちゃにマジックテープをつける
- ・学習させたい文字などのカードにもマジックテープをつける
- ・+レールを使って文章構成の学習もできる

- ・レールをつなぎたいので、自分から楽しんで学習に取り組むことができるようになった

## 教材の使い方 (指導方法)

- 1、レールを提示する（♪わくわくする♪）
- 2、児童の興味・関心や、今学習させたいことの文字カードを取り出す
- 3、机上の幅などを確認しながら+レールを使ってレールとレールを関連付ける
- 4、一人で集中して取り組む
- 5、頑張ったことを誉め、一緒に文字を読む
- 6、自分でカードをはがす
- 7、自分でレールを分解して片づける

注意：文字や数順が間違っても、教員がレールを外してはいけません  
カードの指摘のみにとどめます  
(勝手にレールを外されることを嫌う児童が多い)



# ひらがなリレー

～ひらがな50音の並びの意識を育む～

## 対象児童・生徒

ひらがなの一文字ずつの読みや書きが完成しつつある生徒を対象としています。

N

太田ステージ



## ねらい

ひらがなの活用に向けた次のステップとして、行や段への意識を高める際の教材の一つとして活用します。情報の探索力や集中力、追視する力の向上もねらっています。

基本となるものに加えて、行に応じて色分けしてヒントを増やしたもの、段に応じて色分けしたもの、というように個人の学習の特徴に応じて使い分けられるようにしました。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ・全体で学習の流れを確認した後に、個別に取り組みます。
- ・一人一人の特徴に応じてプリントを配布します。

- ①まずは、ホワイトボードで50音順に線を引いて辿っていくことを確認します。
- ②色分けされたヒントがあるプリントを使用する生徒に関しては、ヒントの存在を伝えます。
- ③集中の継続、運筆力の向上を図るため、辿っている途中は、鉛筆を紙から離さないように促していきます。
- ④ゴールまで辿ることができたら、挙手して報告するようにします。

# 3語文を作ろう

～助詞を入れて文章を作ってみよう～

## 対象児童・生徒

2語文・3語文を正しく聞き取ったり、話したりすることが課題の生徒対象。

N 知的障害学級

太田ステージ III - 1 ~



## ねらい

絵カードを見て、動作主・助詞・目的語・動作語の文字チップを並べることがねらっています。

- ・主に国語の時間の個別学習で使用。
- ・シートをラミネートし、裏にステンレスシートを貼ることで生徒が操作しやすいように工夫した。
- ・最初は動作主や動作語等の選択肢を少なくすることでできるようになってきている。

## 教材の使い方 (指導方法)

- ①絵カードを見て、動作主・助詞・目的語・動作語を下から選択して並べる。
  - ②正しく並べることができたか教員と一緒に読んで確認する。
- 徐々に選択肢を増やしていく。